

学校法人・東京聖徳学園（川並弘昭学園長）は、「学術フロンティア推進事業」に採択された研究施設で、二〇〇三年十月に着工。大学内の生涯学習研究所の機能を移し、少子化に関する地

# 少子・高齢化社会の研究拠点に

松戸の東京聖徳学園

## 「生涯学習社会貢献センター」公開

同センターは、文科省「開かれた大学」を旨とし、地域と連携しながら少子・高齢化社会の活性化について研究していく拠点となる施設で、竣工は九月。敷地面積は約七百七十

平方メートルで延べ床面積は約四千八百三十平方メートル。地上五階、地下一階で外観は前面ガラス張り。地

上高は、同学園の開学七

十周年を記念して七十

となった。総工費は約十

シオ（十階）、乳幼児連れ

トする託児

室（三階）な

とを備える。

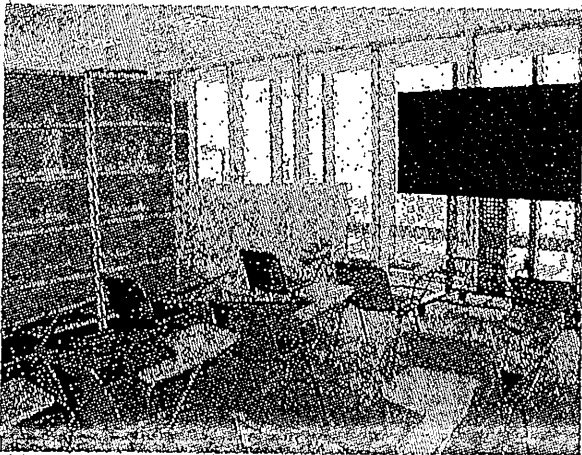
屋上部分

は、照明テサ

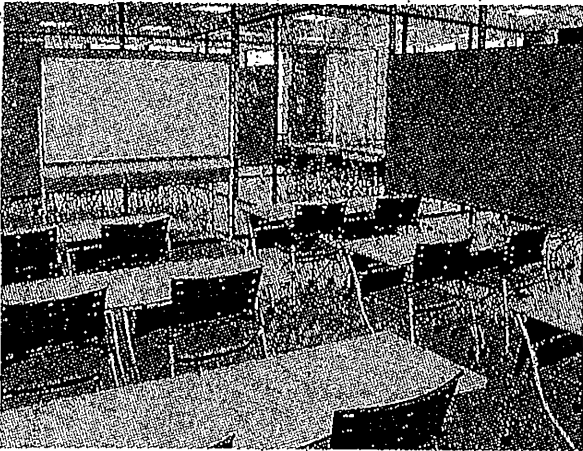
イナリ・石井

幹子氏による

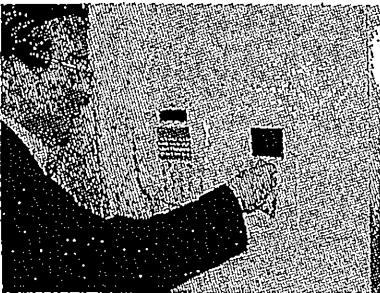
「光のシンフ



インターネットを使い講座の配信も可能な視聴覚スタジオ



ガラスで仕切られ開放感のある研究室



ICカードシステムにより防犯・安全性を確保

省の「私立学校施設整備費補助金」が約四億五千万円。

内部のほとんどを占める研究室はガラスで仕切

る。

福留強・生涯学習研究所長は「駅前にある大学として、地域と結びつくことは非常に重要。今後は学生がもっと地域の中で学習していくようになる。研究成果については毎年いろいろな形で発表していきたい」と話している。